

東ティモールワークキャンプ (日本YMCA同盟主催) 報告

「平和を考える」をテーマに

日本、韓国、香港、ケニアYMCAが集う

今夏、東ティモールワークキャンプに参加させていただき、私自身初めて発展途上国を訪れるという経験もあり、現地での状況をぜひ見たいという大きな期待感と、果たして受け入れてもらえるのかという気持ちが入り混じった複雑な思いで日本を出発しました。

現地空港には軍のヘリが何台も配備されており、軍服を着た兵士が列に並び、飛行機から降りる我々を出迎えます。その目は決して「歓迎」ではなく、我々を監視する、検査している目でありました。間もなく現地日本人スタッフが砕けた雰囲気ジョークを交えながら迎えに來られたので我々の緊張も一気にほぐれました。どのような状況下においても人を和ませる(和ませる努力をする)。これがYMCAのスタッフに共通するものだと研修の始

めには強く学んだ瞬間でありました。到着してからは毎日が目まぐるしく過ぎていき、現地での生活は残念ながらスムーズに行くことなどなく、日本人全員が一度は体調不良に見舞われました。

今回は日本、韓国、香港、ケニアのYMCAから東ティモールに集い、平和を考えるというキャンプでありましたが、それぞれの主張するテーマは異なり、日本のグループは日本軍がかつて世界で犯した過ちを紹



介し、現在の東ティモールの状況と重ね合わせて考えることをねらいとしました。平和に対する思いは、その国の置かれている状況で捉え方も異なります。私たちはそれぞれ置かれた生活環境の延長線上でしか現代世界を

理解できません。それ故に相互に理解しあうのは困難でした。しかし、私たち一人ひとりとYMCAの思いがたどり着くビジョンは変わりなく、時代を超越したものであります。

今回の東ティモール訪問では、世界の愛と平和を継承していくピースメーカーの養成に携わることができ、教育の原点を見ました。今回のこの貴重な機会を与えていただいたことを心より感謝いたします。(古田敏洋・YMCA学院高等学校スタッフ)

第22回中日本サッカー大会

サッカーっていいな♪ 友だちっていいな♪

—兵庫県美方高原—



お互いをたたえ、姿など、ベストをつくした姿は素晴らしいものでした。キャンプでは24時間仲間とともに過ごします。お風呂・就寝・いらいろんな場面から学ぶこと、仲間とから楽しくできることがたくさんありました。食事の手の届かないところにお茶があったら、「お茶いれてくれへん?」とお茶をいれてもらう場面がありました。布団を敷く時、「ちよつと手伝つて」と2人で協力してお互いの布団を敷く姿が見られました。いろんな場面から仲間を感じ、仲間から教えてもらうことがたくさんありました。参加者メンバーにはこのキャンプを通して、サッカーから仲間から、自分の存在を実感し、「生きてるっ!」ということを感じた大会になったことと思います。(福中善久・中日本サッカー大会事務局 堺

国際リレーエッセイ③



～バングラデシュより～

南アジアに位置し、世界の最貧国の一つに数えられるバングラデシュには、2万ともいわれるNGOが存在します。現在世界各国で取り組まれているマイクロクレジットやノンフォーマル教育といった貧困対策は、バングラデシュNGOが生みの親です。バングラデ

シユの農村にはNGOが一つも入っていない村はほとんどありません。マイクロクレジットやノンフォーマル教育の他にも、家族計画、保健指導、飲料水砒素汚染対策、家庭内暴力防止、HIV/AIDS蔓延防止、農業指導、シヨミティ(地域自治)活動、さらには、道路整備やソーラーシステムの導入までNGOが担っています。洪水やサイクロンなど頻繁に襲う自



然災害の救援活動に乗り出すのも、主にはNGOです。地域で暮らす人びとにとっては、政府自体よりNGOの方が身近な存在であるといつても

過言ではありません。当初は国際社会からの援助がNGOの活動を支えていましたが、最近ではマイクロクレジットの利息収益による自立型NGOも増えました。貧困層の女性グループに対して無担保小規模融資を行います。女性たちはそれを元手に養鶏や野菜栽培などインフォーマルセクターにおける小規模ビジネスを始めます。利息は決して安くはないですが、女性たちは経済力を付けるとともに、NGOが利息収益を用いて行う教育や医療サービスも受けることができます。近

年、そうしたマイクロクレジット事業に、欧米の金融機関が投資する動きがあります。今や世界の経済をバングラデシュの貧困層の女性たちが支える構造ができつつあるのです。

バングラデシュのNGOは、地域の人びとと世界を結ぶ橋渡し役となり、最貧国と言われたバングラデシュを世界の重要な一員に押し上げています。バングラデシュの大学・大学院を出た若者たちにとって、NGOはエリート就職先の一つになっています。経済的にも社会的にもバング

ラデシュの将来がNGOに掛かっている現状を見れば、それも納得できるでしょう。

◆筆者紹介◆
南出 和余さん
日本学術振興会特別研究員PD (京都大学地域研究統合情報センター)。大阪YMCAユースボランティアリーダーを経て、現在常議員。元アジア太平洋YMCA同盟委員。

ユースリーダー安全基金募金者② (五十音順)
伊藤鉄也/上西 卓/如津羅陽子/大向純子/蒲生 茜/亀田美保/河合美保/川谷いずみ/木賀由紀子/木村弘子/呉オリビア/河野千尋/齋藤祐弥/酒井千尋/崎元久美子/鷲山将一/澤井由美/塩見友佳子/四方陽子/清水田茂/菅千賀子/杉村 徹/杉山聡子/田中和也/玉井久美代/中山朋子/野村勇斗/東 優希/平橋裕子/藤村加菜/町谷有佳子/松下好江/松丸沙保里/三上和紀/水川聡子/宮下照男/村上あゆみ/山佐亞津子/山本周平/吉田絵理
総合計310件 458,636円

(二〇〇八年九月三十日現在)